

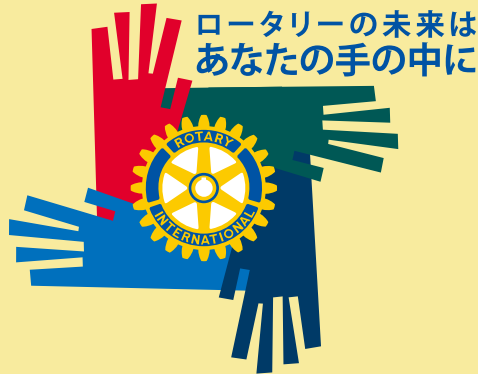


神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2009-2010年度 R I 会長 ジョン・ケニー



2009-2010年度 第2590地区ガバナー 野坂 定

- | | | | |
|-----------|--------|-----------|--------|
| ● 会長 | 河野 明光 | ● 会長エレクト | 横山 範夫 |
| ● 副会長 | 古川 陽太郎 | ● 副会長 | 石川 正三 |
| ● 幹事 | 山田 正憲 | ● 副幹事 | 飯田 泰之 |
| ● 会計 | 朝日 達夫 | ● 副会計 | 田口 健太郎 |
| ● S A A | 月山 勇 | ● 副 S A A | 伊澤 政宏 |
| ● 副 S A A | 矢野 修二 | ● クラブ会報 | 森 永健 |

●クラブテーマ「信頼」●



- 事務局** ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555
- 例会日** 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)
- 例会場** ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和 51 年 5 月 29 日
- URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>
- E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

2009-2010年度 第24号週報 No. 1630 2009年(平成21年) 12月18日 第1630回例会記録 12月26日発行

司会 飯田 泰之 副幹事

点鐘 河野 明光 会長

斉唱 「それでこそロータリー」

四つのテスト 伊東 英紀 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 西川 武臣 様 (ゲストスピーカー)

ビジター紹介 川崎 RC 大久保公之 様
川崎 RC 堀内 愛元 様
横浜保土ヶ谷 RC 尾崎 英俊 様

会長報告 河野 明光 会長

- ・12月度定例理事会報告
- ・米山奨学会より青柳紀会員に第10回メジャードナーの感謝状とバッジが届いておりますので贈呈します。



本日〈12月26日〉のプログラム

「年忘れ家族会」

幹事報告

山田 正憲 幹事

《年末年始の例会案内》

- ・次週12月25日(金)は12月26日(土)へ移動例会『年忘れ家族会』になります。

『年忘れ家族会』 受付 17:00 点鐘17:30

家族会開始 17:45

場所 ホテルキャメロットジャパン

5F ジュビリーII、III

- ・1月1日(金)休会、新年の例会は1月8日(金)からとなります。
なお、1月8日は理事会もごございますので、理事・役員の方は出席のほどよろしくお願い致します。
- ・事務局の年末年始の休み 12月27日(日)～1月3日(日)まで

◎例会変更のお知らせ

*横浜あざみロータリークラブ

平成22年1月13日(水) 例会時間変更 点鐘12:00

1月20日(水) 5クラブ合同例会 点鐘18:30

*横浜都筑ロータリークラブ

平成22年1月6日(水) 移動夜間例会 点鐘18:30

「賀詞交歓会」

3月31日(水) 移動夜間例会 点鐘18:30

「観桜会」

平成22年1月15日(金)⇒16日(土) 移動例会

横浜旭RC 40周年祝賀式に出席

*横浜田園ロータリークラブ

平成22年1月5日(火) 休会

1月12日(火) 新年例会

1月19日(火)⇒20日(水)

5クラブ合同例会

山木幹夫君 結婚、誕生両祝ありがとうございます。傘寿も過ぎ、何かと寂しさを覚えます。これからは駄弁を論じながら楽しく行きたいと思います。

河野明光君 ①天野さんに頂戴致しましたチケットで大変楽しませて頂きました。感謝致します。②西川武臣様、本日の卓話をよろしくお願い致します。

富居利貞君 少し早いメリークリスマス

青柳 紀君 江森さん、先日はありがとうございます。来年は2月3日です。またよろしく!

飯田 昇君 古川先生、ご丁寧なメールを頂き、恐縮しております。こちらこそよろしくお願い致します。

江森国一君 地区国際委員長の青柳さん、横浜金沢ロータリークラブでの卓話、ご苦労様でした。

飯田泰之君 川崎RCより大久保様、堀内様、ようこそいらっやいました。どうぞおかつろぎ下さい。

天野公史君 西川武臣様、本日はお忙しいところありがとうございます。楽しみに聞かせて頂きます。

脇田いすゞさん 寒くなりましたね! パパシャツとタイトの季節です。

金森欣一君 西川様、本日の卓話を楽しみにしていました。どうぞよろしくお願い致します。



12月18日	13件	31,000円
本年度累計		1,261,874円

出席報告

茂木 知子 委員長

会員総数	60名	(49+11)名	
出席会員数	48名	(40+8)名	
出席率	84.21%		
ゲスト	1名	ビジター	3名
前回補正後	92.98%	前々回補正後	89.66%

スマイルボックス

月山 勇 SAA

川崎RC 大久保公之様

本日はお世話になります。

川崎RC 堀内愛元様

川崎クラブ、元会長 大久保さんとまた来ました。よろしく。

横浜保土ヶ谷RC 尾崎英俊様

本日はお世話になります。

卓話

「横浜開港と暮らしの近代化」



横浜開港資料館 主任調査研究員 西川 武臣 様
(紹介者 金森 欣一 会員)

幕末から明治初年の横浜の町と住民 —残された手紙から—

横浜開港資料館には横浜の歴史を明らかにする膨大な史料が所蔵されている。その中には、昔の人が書き残した手紙が多数含まれている。これらの手紙には、公文書からはけして知ることができないような興味深い事がらが書かれている。そこで、ここでは幕末から明治初年にかけて横浜で書かれた手紙を紹介し、古い手紙を読む楽しみを味わっていただくことにした。まず一番目の手紙は、万延元（1860）年七月に書かれたもので、筆者は外国奉行鳥居越前守の家臣であった林勇右衛門という人物である。彼は主人に従ってたびたび横浜に出向き、開港当初の横浜の様子を手紙に認め知人に送った。ここに紹介する手紙はその中の一通で、当時の横浜の生活環境について述べたものである。

「横浜表当宿所、蚊・蠅沢山と申事に候得共、匱田儀、大き成山切崩、右土を埋、家居建候事故、呑一切居り不申、蚊も此間の雨にて一切居不申、夜中蛾無之、蠅の義は海近故哉、沢山にて毎日二、三百程も打捨候得共沢山相成、茶など汲置等は二、三疋は飛込相果、三度の食事も余程心付不申などは相成不申、夜中其蠅相付困入候、水至て悪敷、塩気は無之候得共、田の中へ堀井戸鉄気強く、夫故石・砂沢山御先方へ御入の処、同様宜敷無之に付、又々御石出し、猶又深く御掘らせ相成候得共、同様にて、井際は八、九尺候得共、右井戸より出し石一日の内赤さび申候、御庭廻り水仕候砂利真赤にてさび、右の水故、腹張困り入申候、風呂入・朝の顔洗候ても誠に染顔中ひりひり痛由候、」

この手紙から、当時の横浜には非常に蠅が多かったことがわかる。彼は毎日二、三百疋の蠅を打ち捨てていると述べ、食事の際にも蠅が茶碗に飛びこみ、ゆっくり食べていられないと報じている。また、飲料水については鉄分が強く、飲むと腹が張って困るとあり、この水で顔を洗うとひりひり痛むとも書かれている。

次に二番目の手紙であるが、この手紙は明治元（1868）年十月に書かれたものである。筆者は、生糸の貿易商吉村屋の番頭を勤めていた百助という人物である。彼は、この手紙の中で、横浜の住民の生活感覚について次のように述べている。

「誠に御当港は穩にて何にても別条も無之、世間附合又は近所に何様の義有之候ても何にても差構無之、兎角面倒筋無之、至極御弁利にも相成可申哉、（中略）尤御府内とも違ひ御案内の通り地狭の処に御座候得共、隣しらすにて日々御遊参にても被遊候は、御尊躰の御為にも相成可申哉奉存候、」

この手紙には、横浜では面倒な世間づき合いがないので住みやすいと書かれてある。さらに、彼は横浜と江戸とをくらべて、横浜は江戸より狭いにもかかわらず、「隣しらす」と隣に誰が住んでいるのかも分らないことがあると述べている。このような現象は、横浜に古くからの共同体が存在しないことによって引き起こされた。横浜は安政六（1859）年の開港以前には小さな農漁村にすぎず、開港後の住民の大部分が他所から移住した人々であった。そのため、古くからの町とは違って住民相互のつき合いは極めて希薄であったと思われる。彼はそのような生活様式を好ましいと述べているが、そこには現在の都市生活者と同様の意識をみることができよう。

さて第三の手紙は、横浜の住民と西欧文化との出会いに関するものである。筆者は、生糸貿易商吉村屋幸兵衛の父親重内である。彼は上州（現在群馬県）大間々町の出身で、横浜移住後、さまざまな

西欧文化にふれ、その驚きを郷里の人々に手紙で伝えた。ここでは彼の書いた手紙のいくつかを要約して紹介する。

まず食生活に関するものからみていこう。彼は、明治四（1871）年十月、郷里の嫁に牛肉のみそ漬を送った。荷物に同封された手紙には「誠に牛は宜敷（中略）至極薬に相成」と横浜では牛肉を薬として用いているとある。さらに、孫娘が牛肉を食べるようになってから太ってきたことや牛肉が大好物になったことが書かれている。次に牛乳については、明治四（1871）年十二月の手紙に「乳不足に候は、牛の乳もこれあり、浜表の小児牛の乳にて育て候者多分御座候、誠に薬にて大丈夫に育ち候」と書いている。つまり、母乳の不足している女性に牛乳を利用することを勧めているのである。また、横浜では牛乳で育てられた子供が多数いると述べている。

第二は風俗についてであるが、彼は明治四（1871）年十一月に「ざんぎり頭」の流行を手紙に記している。そこには「浜表・東京追々男女共、かみを切候」と横浜や東京では「ざんぎり頭」が一搬的になってきたと書かれている。彼の孫娘も「ざんぎり頭」にしたようで、孫娘の髪型について「ざん切に致候かたよろしく」と報じている。

最後に紹介する手紙は、日本最初の女子留学生が渡米することを知った時の驚きを記したものである。この時、渡米したのは津田梅子ら五名の女性で、日本の女子教育制度確立のために外国に派遣された。

さて、明治四（1871）年十一月の手紙には、女子の留学について「誠におもしろきよがらに相成」と感想が記されている。さらに、彼は「やまとめぐりよりこころやすく相成」と国内旅行より洋行の方が簡単になったと述べている。つまり、彼はさまざまな西欧文化との出会いを通じて、西欧を極めて身近なものに感じることができるようになったのである。

以上、三人の手紙を紹介した。手紙は発信者と受信者の二人だけが見ることができるものであるため、そこには発信者の本音が語られることが多い。また、書かれていることも、日常生活を題材にしたものが多いといえる。つまり、歴史の中で最も分かりにくい部分が、手紙によって明らかになることも多いのである。筆で書かれた手紙の文章は大変読みにくいものであるが、本稿をきっかけとして当館所蔵の手紙の利用が増えれば幸いである。

（本稿を作成するにあたっては、群馬県勢多郡新里村の吉田宰治氏所蔵の文書を利用した。なお、当家文書の複製は、横浜開港資料館が所蔵している。）（西川武臣）

昭和60年11月1日（金）横浜開港資料館館報 第13号より

クラブニュース

ワンワールド・ワンピープル協会 鈴木一男様からメールと写真が届きましたので紹介します。

大雨が小康状態になり、雨の止むのを待っている間に大分暗くなってしまいましたが、明日の行事も目白押し、井戸完成式を行いました。

ポロンナルワ県メディリギリヤ村サマギブラ地区、所帯数109、人口1,182名、井戸使用11所帯53名、5歳以下乳幼児8名、移動幼稚園に26名が在籍している。この地区は村で一番の低地で、一帯の降雨の水が流れ込み、車の進入に難儀しました。このような環境の中、農薬を使用している田圃を流れて入り込む水の為、近辺の井戸も問題をかかえており、肝臓、腎臓障害などで昨年も23名が死亡しているとのこと。その為、井戸建設場所の選定に十分気を遣い、村議会議長サンパス氏自らOWOPの協力者ジャヤラット氏を伴って何度も近辺を調査して、この地域が一番安全であることを確認したと説明がありました。セメントを使用、周囲をきちんと整備した井戸はサマギブラで初めての井戸と説明があり、びっくりしました。他に4ヶ所井戸がありますが大雨で周りから水が流れ込んでしまいました。そして、特別に許可を与えて、完成式前に多くの人に公開して水を汲んだ為、少し周辺がいたんだと謝っていました。また、この地域はトリンコマリー県と隣接、LTTEの戦闘中は村のインフラを改善する機会が全くなく、幼稚園も園舎は無く、“移動幼稚園”として運営されて来たそうです。この井戸近辺から一番近いバス停が3キロもあると言うローカーストの為、社会整備が遅れている場所で近辺に田圃もあるが皆な遠隔地の地主のもので自分の田圃を持っている人は皆無、日雇が村の主な“産業”だそうです。

集会を行った所も田圃の畦道を100メートルも入ったところで、降雨の中敷いてくれたレンガを歩くのも危なく、結局ずぶずぶ泥の中を歩いていく始末でした。しかし、遅い時間になったにも拘らず、たくさんの子供や村人が待っていてくれ、感激しました。

粗末な家の前に黒いビニールを張って屋根代わりにになっている8畳ほどの場所が前の日の常設幼稚園だそうで、園児の最長年者が歓迎の挨拶を英語で読んでくれ、子供達が一生懸命踊りを披露してくれました。

サンパス議長が挨拶で、若い親が無くなった子供も多く、一番心配して来た地域だが、OWOPとヨコハマ動物病院の好意で立派な井戸が出来、地域の子供たちの健康維持に大変役立たせて頂くことが出来ました。私たちは日本人の好意に応じて子供たちの養育に力を合わせようと述べました。

翌日天候の回復を待って行った隣の場所でOneSong, OneMilkプログラムを実施。この乳幼児も参加してもらい、ミルクを配布しました。



遅くまで待っていてくれた村の子供たち



集会で庭先を使った家の室内。6畳ほどの一部屋に1寝室と台所の家ですが、庭先を雨の日に移動幼稚園のクラスに使わせてくれる家庭



横浜動物病院(小池将夫会員)寄贈の井戸



ポロンナルワ県メディリギリヤ村サマギブラ地区

次回《1月8日》の卓話予定

「新年挨拶」

会長、副会長、幹事、会計